

I. 概観



ウクライナ国旗

(青空と小麦の黄色い畑)

1. ウクライナ概要

正式国名	ウクライナ (ウクライナ語: Україна、英語: Ukraine)
国土面積	60万3,700平方キロメートル (日本の約1.6倍)
人口	4,577.8万人 (2011年)
首都	キエフ (人口約279.9万人 (2011年))
民族構成	ウクライナ人77.8%、ロシア人17.3%、ベラルーシ人0.6%、モルドバ人0.5% (2011年統計)
宗教	ウクライナ正教会 (キエフ総主教府、モスクワ総主教府、自治教区派)、ウクライナ東方典礼カトリック教会 (グレコ・カトリック)、ユダヤ教、イスラム教 (スンニー派)、カトリック
公用語	ウクライナ語 (ウクライナ憲法により国語と規定されている。東スラブ語の一つでロシア語、ベラルーシ語が兄弟関係にあるが、南スラブ語に属するポーランド語と共通する語彙も多く見られる。) ウクライナ人にとってロシア語は旧ソ連時代の公用語だったこともあり、多くの者は両語を理解し、ウクライナ語とロシア語の混同も見受けられる。
通貨	フリヴニャ (UAH、гривня)、補助通貨単位はコピーカ (копійка 0.01フリヴニャ) 1ドル=7.99300フリヴニャ (2013年8月9日付中銀レート)
日本との時差	-7時間 (サマータイム実施時は-6時間) UTC+2
ウクライナの祝日	1月 1日 新年 1月 7日 正教クリスマス 3月 8日 国際婦人デー 4月 復活祭 (年により日が異なる) 5月 1~2日 メーデー 5月 9日 対独戦勝記念日 6月 三位一体祭 (年により日が異なる) 6月 28日 憲法記念日 6月 24日 独立記念日

II. 一般情報

1. 基本情報

1) 査証

90日以内の滞在の場合、査証は不要。

2) 両替・支払

銀行の他、ホテル、空港、市内の両替所で可能。両替の際、パスポートの提示を求められます。

支払は現地通貨で行うことが、法律で定められています。

トラベラーズチェック（T/C）の利用は困難で、現金化できる銀行も限られています（※下記「T/C取扱銀行」参照）。

クレジットカードは、主要なホテルをはじめ、使用できるレストランや店舗が増えています。カード使用に際しては、暗証番号（PINコード）の入力を求められますので、必ず控えておくようにしてください。（注：高額な商品をクレジットカードで購入する際、店でクレジットカードを通した時にエラーが発生し、日本のカード決済銀行から決済許可を求められる場合が稀にあります。このようなケースに備えて、お持ちのクレジットカード決済銀行の24時間対応カスタマーセンターの電話番号を控えておくことをおすすめします。）

市内にあるATMでクレジットカードを利用して現金を引き出す際は、なるべく屋内にあるATMを利用するようにしてください（歩道沿いにあるATMの方が、スキミング被害に遭いやすいため）。

※T/C取扱銀行

●UKREXIMBANK／住所：вул. Горького 127／tel：247-8070／取扱T/C：Tomas Cook、AMEX、City Corps、Swiss Bankers（AMEXの場合手数料無料）

●RAIFFEISEN BANK AVAL／住所：вул. Михайлівська 2／490-8888／取扱T/C：AMEX（手数料2%）

3) 交通機関

（空港との連絡）

4) チップ

ウクライナはチップの習慣は発達していませんが、レストラン等では5～10%程度渡すと良いでしょう。おつりを置く程度で問題ありません。

5) 電圧

電圧は220V/50Hz、プラグはCタイプですので、日本製ドライヤー、電気カミソリなどの電気製品を使用する場合は注意して下さい。

6) 衛生

・公衆トイレ：キエフ市内の観光スポットにある有料トイレ（一回2フリヴニャ程度）

は比較的衛生管理されており、トイレトペーパーはあります。一方、無料公衆トイレは少ない上、内部は非常に汚く衛生管理が不十分ですので、トイレトペーパーなどはまずないと言えます。トイレはなるべくホテルやレストランで済ませておくことをお勧めします。

・飲料水：当地の水道水は石灰分が多く飲料には適していないため、ミネラルウォーターを購入することをお勧めします（ウクライナ人も水道水をそのまま飲むことは極めて稀です）。

7) 電話

ウクライナの国番号： 380

キエフの市外局番： 044(国番号を入れる場合は44)

国際電話認識番号： 00

海外にかける場合：00+「国番号（日本81）」+「0をとった市外局番」+「相手先の電話番号」

日本からかけてもらう場合：

・固定電話：「国際電話認識番号（001他）」+380+「市外局番（キエフは44）」+「電話番号」

・携帯電話：「国際電話認識番号（001他）」+380+「0を取った携帯電話番号」

2. 入国

1) 入国手続き（パスポート・コントロール）

キエフの空の玄関は「ボリスピリ国際空港」で、市内中心部から南東約50kmに位置しています。飛行機は直接空港ターミナルビルの棧橋へ着く場合もありますが、殆どの場合はタラップを降り、送迎バスに乗ってターミナルビルへ向かう形となります。ターミナルビルを入るとすぐ入国審査のフロアがあり、ここで入国審査を行います。審査の際は、パスポートを提示して下さい。

（出入国カードは、2010年8月より不要となりました。）

2) 税関申告

入国審査を終えると、機内預け荷物のターンテーブル・ゾーンに出ます。ここで到着便が表示されているモニターをチェックして、預け荷物を受け取り、税関申告に移ります。（税関申告書はターンテーブル付近の机で入手できます。申告される方は、出国時の分も併せて入手しておくといいでしょう。）

税関申告にかかる手続きは以下の通りです。

イ) 税関申告が不要な方：お手持ちの外貨の合計が1万ユーロ以下で、申告が必要な高価な物品を所持していない方、および外交旅券をお持ちの方。預け荷物を受け取ったら緑の表示が

ある通路へ進み、検査官に声をかけられたらパスポートを提示して簡単な質問（外貨は3,000米ドル以下か、高価な物は無いかなど）に答え、到着ロビー出口へ進みます。

ロ) 税関申告が必要な方：上記1. 以外の方。お手持ちの全ての外貨（円、ドル、ユーロ等別々に）、高価な宝石・貴金属等、武器や危険物の有無等を正確に税関申告書に記入して下さい。比較的高価なパソコン・デジタルカメラ、楽器（特にバイオリン）等も申告された方が無難です。（これまでに、外貨の申告額を偽って記入したり、1万ユーロ以上所持しているにも関わらず申告しなかったために、税関で現金を没収された例が何件も見受けられますので、税関申告はきちんと正確に行い、出国時に問題が起こらぬようご注意ください。）また、ウクライナへの持ち込み外貨は1万ユーロで（現金1万ユーロ、もしくは1万ユーロに相当する金額）と規定されており、これを超える場合は持ち込みできません。

税関申告書を記入後、赤の表示がある方へ進み、パスポート・税関申告書を検査官に提示して下さい。（検査官により税関申告書に検査済の印鑑が押されたことを確認して下さい。）検査終了後、到着ロビー出口へお進み下さい。

3. 出国

1) 出国の際の税関審査

チェックインは、出発の2時間前からとなっています。

入国時に税関申告をされた方は、出国の時点で所持している現金等を税関申告書に明記し、審査を受ける必要があります。入国時と同じ要領で税関申告書に記入し、1階出発ロビーの税関窓口にて入国時の税関申告書（入国時申告された方）、パスポート、航空券と共に検査官に提出します。

税関審査に関する諸注意は以下の通りです。

イ) 記入の際、現金所持金額が入国時より増えていると問題となりますので、ご注意ください。

ロ) 古美術品（1945年以前のもの）は国外持出禁止です。それ以外の美術品については文化省の許可が必要ですので、文化省分局にて手続きを行って下さい。

●文化省分局

住所：бул. Шевченко, 3 (2 этаж)

Tel：279-5689、279-5647

受付時間：水・木・金の10:00～13:00

手続方法：購入した美術品、美術品を写したカラー写真2枚、パスポートを持参の上、原則として本人が分局へ出向いて手続きを行って下さい。その際手数料が少々（24フリヴニャ程度）かかります。

2) 搭乗手続き

税関審査が済んだら各チェックイン・カウンターのモニターで搭乗便を確認し、搭乗手続きを行います。当空港は超過重量に対し比較的厳しく、3kg程度の超過でも超過手荷物料金の支払いを命じられることがあります。超過手荷物料金はチェックイン・カウンター近くの窓口で支払います。支払いは現金（フリヴニャ）またはクレジットカードです。

3) 出国手続き（パスポート・コントロール）

搭乗手続き終了後、2階に上がり、出国手続きに移ります。窓口で検査官にパスポート・航空券（搭乗券含む）を提示して下さい。出国手続き後、免税店などのある待合フロアで搭乗のアナウンスを待ちます。また、モニター画面にて各便の案内が常時表示されていますので、搭乗手続きの受付終了や搭乗開始などをチェックすることができます。ビジネス・クラスをご利用の方は、出発ロビー奥のビジネス・ラウンジでもお待ち頂けます。（チェックイン・カウンターで手交される利用チケットの提示が必要。）搭乗開始予定時刻の少し前にセキュリティーチェックを済ませ、搭乗が始まったら搭乗口へ進み、搭乗します。

4. その他注意事項

1) 治安

イ) 治安状況

過去には日本人をターゲットにした空き巣、押し込み強盗なども発生していましたが、これらの犯罪は最近見られません。しかし、アジア系の顔は目立つうえ、日本人は裕福であるとの先入観があつて強盗犯人のターゲットになりやすい存在となっていることから、夜間キエフ市内の大通りで若者数人のグループを犯人とする路上強盗や、市内の集合住宅エレベーター内の強盗が発生しており、数ヶ月に1回の割合で邦人が被害に遭っています。一人歩きの邦人被害者に対し、複数犯人が突然ビール瓶で後頭部を殴打したり、手拳で数発以上も頭部や顔面を殴打し、倒れ込んだところを足蹴りするなど、一歩間違えれば重傷に及ぶ手口で暴行を加えて金品の強取を狙ってきます。市内の大通りといえども夜間の一人歩きは避ける、エレベーターに見知らぬ人物と乗り込まない等の防犯対策は絶対に欠かせません。

駐車中の車内からの窃盗被害のほか、人混みでのスリ、レストランなどでの置き引きなどの被害も発生しているほか、善人を装って被害者の目前で他人の財布を拾い、後から来る落とし主役の仲間と共に被害者の財布から巧妙に現金を盗み取る手口などもありますので、海外での一般的な防犯上の心構えが必要です。

最近特に深刻となっているのがスキンヘッドと呼ばれる若者等を始めとする集団暴行事件です。キエフ市の中心部で週末の夜間にアジア系、ヒスパニック系、アフリカ系、アラブ系などの外国人に対する集団暴行事件が発生しています。中には、暴行を加えた上金銭等にはあえて手を触れず、旅券のみを奪取し棄損したもの、日本人であることを確認して犯行に及んだ事例もあります。これまでの事件は独立広場、フレッシュチャーチ通り、オペラ座周辺、シェフチ

エンコ公園などキエフ市の中心部において、特に週末の夜間に多く発生しています。暴行の手段は時にはビール瓶を用いるなど極めて凶暴で、重傷を負うケースもみられます。被害者側が複数で行動している場合には犯人側はこれよりも多い人数で犯行に及んだり、被害者側が様々な人種で構成されたグループの場合には有色人種だけに暴行を加えたりしています。被害に遭いそうになった場合は、直ちにその場から立ち去ることをお勧めします。

また、偽警察官も含め警察官は深夜、早朝など人気の少ない場所、時間帯に外国人旅行者に様々な理由をつけて罰金名目で外貨を巻き上げようとしますし、入国管理を行っている国境警備隊員や税関職員も密室状態の場所では不当な手数料や根拠のない罰金を要求するケースが見られますので、十分な注意が必要です。

ロ) 一般的防犯対策

当地の人は一般的には穏やかで親切な人が多いのですが、犯罪者はむしろ大胆で粗暴な犯罪を敢行する傾向が見られ、被害が甚大になる可能性を秘めています。日常の起居、買い物や散歩などにも防犯意識を堅持して油断せずに行動すれば犯罪被害に遭うことも少ないのですが、僅かな油断から身体財産に大きな危険が及ぶことも考えられますので、防犯対策や防犯意識の徹底など十分な注意が必要です。

当地滞在にあたっては、特に以下の点に注意して下さい。

- 住居、ホテルのドアは相手を確認できない場合は絶対に開けない。
- エレベーターはなるべく一人で乗るように努め、場合によっては一台見送る。
- “白タク”は極力利用しない。
- 公共交通機関等の人混みの中では、パスポート・現金など貴重品を盗まれないよう特に注意する。
- 暗くなってからの一人歩きは避ける。
- 街中でスキンヘッドや不良風の若者集団が目についたらすぐに逃げる。

2) 交通

車は右側通行です。概してドライバーの運転マナーは悪く、車輛優先なので、道路を横断する際は青信号でも左右をよく確認の上、注意して渡して下さい。(信号が赤から青に変わる前に黄ランプが点灯しますが、黄色ランプで殆どの車は始動します。)

3) 街頭販売

街頭で販売されているピロシキなどは衛生管理が不十分な場合もあり、肝炎などの原因にもなりかねませんので、街頭での衛生に問題がありそうな食品の購入はなるべく避けた方が良いでしょう。

4) カジノ・バー等

カジノ・バーなどは、犯罪やトラブルの発生しやすい場所ですので特に注意が必要です。必ず現地事情を良く知っている人を同伴して下さい。

5) 言語

当地の国語はウクライナ語ですが、キエフおよび東・南部ではロシア語も十分通用します。ただ、西部や農村部ではロシア語は解されるものの、ウクライナ語が主流となっています。地名などはウクライナ語とロシア語で読み方が異なる場合がありますので、ご注意下さい。（例：ハリコフ（露）→ハリキフ（宇）、リヴォフ（露）→リヴィウ（宇）、チェルニゴフ（露）→チェルニヒフ（宇））

5. 現況・気候

1) キエフの現況

ウクライナの首都キエフ（Київ）は、沿ドニプロ低地に位置し、総面積827平方km、人口約279万920人（2011年現在）を有しており、樺太北部、ドイツのフランクフルト、カナダのウィニペグとほぼ同緯度にあります（北緯50度25分、東経30度30分）。また市内は、古来より通商路として利用されたドニプロ川（全長1,204km）を挟んで右岸（西側）と左岸（東側）に分かれ、右岸は古くから拓けていたため歴史的建造物が残っているほか、現在は行政および商業の中心地として栄えています。一方左岸は新興住宅地として高層住宅などの建設が進んでいます。

キエフは別名“緑の都”とも呼ばれ、市内には広大な植物園がある他、緑豊かな公園があちこちに点在し、木々が芽吹きライラックやカシュタン（栗の一種）の花が咲き乱れる春、街路樹が紅や黄に染まる秋など、四季折々に美しい姿を見せてくれます。

尚、キエフ市は1971年9月7日に京都市と姉妹都市友好協定を締結し、日本・ウクライナの友好行事が度々開かれるなど、文化交流が続けられています。両市とも古都として1,500年近い歴史を持ち、美しい建造物が大切に保存されている観光都市であり、また大きな河川（ドニプロ川および鴨川）と豊かな緑に囲まれているなど、多くの共通点が見られます。

2) キエフの気候

キエフは冷帯湿潤大陸性気候（Dfb）に属し、夏らしい時期は6月から8月までで、11月上旬から4月初旬頃まで長い冬に閉ざされます。春と秋に相当する期間はそれぞれ4～5月、9～10月ですが、日本と比べて短いのが特徴です。キエフの厳寒期（1月）の平均気温はマイナス5℃～10℃ですが、近年は比較的暖冬の傾向があるようで、マイナス10℃以下にまで下がる日は殆どありません。一方、真夏（7月）の平均気温は17℃～30℃で、日によっては35℃

以上まで上がることもあります。ただ、湿気が少ないため過ごしやすく、蒸し暑さはあまり感じません。降水量は比較的多く、降雨日数が一番多いのが7月で平均約75mmです。冬季はもちろん降雪がありますが、キエフに関しては豪雪に見舞われることはさほど多くありません。

6. 略史

1) キエフ・ルーシ

「ロシア諸都市の母」という別名を持つウクライナの首都キエフは、その名の通り東スラヴにおいて最も古い都市の一つであり、その名はロシア最古の年代記「ロシア原初年代記」（1113年）に現れています。その中でキエフは482年にキー、シチェク、ホリフという3兄弟により建設され、「（長男である）キーの町」という意味からキエフという名が付けられたと伝えられています。その後9世紀、ノヴゴロド公国（ロシア史上最古の国家）を建国したヴァイキングの族長リューリクの孫イーゴリがキエフを中心としてドニプロ川沿岸にキエフ公国（キエフ・ルーシ）を建国し、988年にウラジーミル聖公がギリシャ正教を導入して以来、キエフは政治、経済、文化の中心として発展を続け、当時東方アジア方面より絶え間なく西進を続けていたトルコ系遊牧騎馬民族（ペチェネグ族、ポロヴェツ族など）の襲来に度々悩まされながらも11～12世紀にかけて全盛期を迎えます。この時代の文化遺産として現在も残っているのは、ヤロスラフ賢公によって創立され、キエフ最古の石造建築物であった聖ソフィア寺院（1037年）、ペチェルスカ大修道院（1051年）などがあり、これらはユネスコの世界遺産に指定されています。しかし、13世紀になるとモンゴル軍がキエフ・ルーシにも襲来し、1240年ついにキエフが陥落してキエフ・ルーシはモンゴル帝国による支配を受けることとなります。その後、キエフの衰退によってルーシの中心はモスクワへと移りました。

2) コサックの歴史

14世紀にはウクライナの大部分はリトアニア大公国、一部はポーランドの支配下に入り、1569年、両国が合併し、単一のポーランド王国を作るとウクライナは同国の領土となりました。その間14世紀から16世紀にかけて今日のウクライナ南部（ザポリヅジャ）、黒海沿岸にかけてポーランド、リトアニアからの逃亡農奴を中心としたウクライナ・コサック集団が形成され、海賊行為、漁業を営んでいました。「コサック」とはトルコ系の言葉で“群れを離れた人々、自由民”を表します。17世紀にはキエフを再建、本拠地を移して正教を保護しましたが、巨大化したコサック集団に対し、ポーランド政府は統制下に置こうとし、衝突が頻発。1648年にはボフダン・フメリニツキー（5フリヴニャの肖像画になっています）に率いられたウクライナ・コサックとの全面戦争に発展しました。1654年フメリニツキーは劣勢を挽回するため、ロシアのツァーリに対しポーランドからの保護を求め、そのかわりにツァーリの宗主権を認めることとしました（ペレヤスラフ協定）。右を受け入れたロシアはポーランドと戦い、アンドルソフ講和によりドニプロ右岸はポーランド領、左岸及びキエフはロシア領となりました。当初ロシアは

ウクライナの自治を認めましたが次第に統制を強め、18世紀には女帝エカテリーナ二世によって完全にロシアの一部とされました。

3) 旧ソ連時代のウクライナーウクライナ化への模索

ロシア革命の後、一時独立を宣言した時期もありましたが、1922年にソ連邦の形成に参加。1929年から始まった強制的農業集団化、過酷な穀物徴発によりウクライナ農村は人口の10%を飢饉で失いました。また、第二次世界大戦ではドイツ軍によって国土の大半が占領され、戦争の被害者は500万人と推定されています。その間、独立の動きもありましたが果たせませんでした。ゴルバチョフ時代からペレストロイカも始まりましたが、経済危機や市場経済移行の遅れで経済・社会情勢は沈滞しました。

III. 観光

1. 寺院・修道院

キエフ・ルーシ時代にはキエフに300もの教会が存在したといわれていますが、モンゴル・タタール人の襲来やソ連時代の教会弾圧を経てその数は激減しました。独立後はペチェルスカ大修道院の「ウスペンスキー寺院」や「聖ミハイル黄金ドーム修道院寺院」のように再建が行われています。

1. ソフィア大聖堂 Софійський собор

住所：вул. Володимирська, 24 / Tel：278-6706, 278-6152, 279-2256

開館時間：10:00～17:00（水曜日 10:30～16:30）／休館日：木曜日（冬期のみ）

入館料：50フリヴニャ（敷地内への入場に別途3フリヴニャ）

ガイド：10:30～16:30、露語・英語100フリヴニャ（15人まで）（英語は要事前予約）

1037年（1017年という説もある）キエフ・ルーシ全盛時代に、ヤロスラフ賢公によって遊牧民族ペチェネグ族に対する勝利を記念して建立されました。敷地内には東スラブ最初の図書館も建てられるなど、キエフ・ルーシの政治や文化において中心的な役割を果たしました。

寺院の大きさは、縦（奥行き）37m、幅55m、円屋根までの高さは29mです。建築者は不明ですが、建立当時はロマネスク様式の建築であったことが、オランダ人画家ベステルフリュドの作品（1651年）からうかがえます。13世紀の「モンゴル・タタールのくびき」を経て傷みが激しくなり、修復が繰り返されました。16世紀にはユニエイト教徒（現在西ウクライナを中心に活動を行っているキリスト教の一宗派）に所有され、17世紀初め、ピョートル・モヒラ府主教がここに男子修道院を建てました。その後、大聖堂はウクライナ・バロック建築様式に

改築され、6つの球状の形をした円屋根が付け足され、金箔がほどこされました。

現在、大聖堂に入ると、すぐ右手に17世紀までの大聖堂の模型が、左手に17世紀以降現在に至る大聖堂の模型が展示されています。内部は12本の柱でいくつかの身廊（キリスト教会堂の中心部分）に分かれています。中央の身廊が最も広く、その天頂にはキリストが描かれ、周りを4人の天使が囲んでいます。天使の1人は11世紀のモザイク画のままですが、他の3人の天使は、1884年ブルーベリによって油絵で描き直されました。ドーム中央には、両手を上げて祈っているオランタ像が11世紀のモザイク画のまま残っており、金色を背景に177色もの染料が使われています。

内部を区分している12本柱の側面には、かつてフレスコ画が描かれていました。現在、11世紀に描かれたフレスコ画は残念ながらそのごく一部しか見る事が出来ません。その中でも有名なのが、中央身廊の左手にあるヤロスラフ賢公と4人の娘たちを描いたフレスコ画です。彼には4人の娘がおり、ヤロスラフ賢公の遺伝を受け継ぎ片足が短く不自由だった末娘以外はみな外国の王妃となりました。

右手奥の身廊には、守護天使ミハイルのフレスコ画が描かれ、左手奥の身廊にはヤロスラフ賢公の眠っていた石棺が置かれています。この石棺は1936年に開けられ（彼の妻の骨も見つかりました）、人類学者ゲラシモフはこの骨を元にヤロスラフ賢公の彫塑を造り、現在この大聖堂に保存されています。

ソフィア大聖堂の表玄関となっている鐘楼は1699年から1706年にかけて建てられました。当初3階建てでしたが地震により崩れ、再建後は落雷のため円屋根が焼失しました。その後19世紀半ばに現在の梨状の円屋根をした4階建ての鐘楼が再建されました。高さは78m、鐘楼の重さは約13tです。

敷地内および鐘楼入口にあるお土産専門店では、質の良いウクライナ土産を購入する事が出来ます。

2. 黄金の門 Золоті ворота

住所：вул. Володимирська, 40a / Tel : 278-6919, 278-4544

開館時期：5月～10月の10:00～18:00 / 火曜日：10:00～17:00 / 休館日：月曜日 / (冬期は休業)

入館料：15フリヴニャ (子供：8フリヴニャ)

この門は、町を防衛する役割と、文字通り町の門としての機能を果たすために、キエフ・ルーシ時代の1037年に建てられたものです。

門の上には、金箔塗りの屋根の付いたブラガベシェンニー寺院が建てられ、門の名前は恐らくその金箔の屋根に由来していると考えられています。他にも諸説があり、ビザンチン帝国コンスタンチノーブルにある同名の建造物から名前をとったという説や、銅製の門が太陽に当たって黄金に光り輝いたためという説もあります。いずれにせよ、当時人々の間で、この門は天の門として考えられ、門の頭上高く登る太陽が人々を闇と死から救うとされていました。

1750年、門を保存するため地中に埋められましたが、1832年考古学者ロフビツキーにより発掘され、11世紀の外観に戻すための研究がその後150年も続けられました。キエフ建都1500年祭が行われた1982年によく修復作業を終えましたが、壁の一部に残る断片だけが古代ロシアの建築技術を伝えています。

ロシアの作曲家ムソルグスキーが、友人であった画家ハルトマンの遺作展で見た絵画に大変感銘を受け、そのインスピレーションによって組曲「展覧会の絵」を作曲したのは有名な逸話ですが、その最後を飾る曲「キエフの大門」はハルトマンの描いたこの「黄金の門」がもとになっています。

3. ペチェルスカ大修道院 Кієво-Печерська Лавра

住所：вул.Лаврська, 9 / Tel : 280-3071

開館時間：08:00～20:00 / 休館日：なし / 入館料：大人50フリヴニャ、子供25フリヴニャ

ガイド：500フリヴニャ（10人まで）（英語・ロシア語・独語等）

ロシア正教では「大修道院」の肩書きが許されている修道院はモスクワの「セルギエフ・ポサード大修道院」、サンクト・ペテルブルグの「アレクサンドル・ネフスキー大修道院」、ウクライナ西部のテルノピリ州にある「ポチャイフスカ大修道院」とキエフの「ペチェルスカ大修道院」の4つに限られています。その中でも最も歴史があり、ロシア正教の「メッカ」とも言えるのがこのペチェルスカ大修道院です。広い敷地は上部の国有博物館敷地と下部の修道院敷地とに分かれており、修道院敷地は入場無料、上部博物館敷地は有料となっています。広い敷地に複数の博物館と教会を持つ修道院で、全部を見るには丸一日かかるでしょう。主な見所としては以下の通りです。

【三位一体教会】 Троїцька надбрамна церква

12世紀初頭に建てられた教会。現在、ペチェルスカ大修道院の正門となっています。正門をくぐった左手に教会への入口があり、入口を入ると「寺院から追放される商人」と題された壁画が描かれています。寺院の内部は三位一体をモチーフとした壁画で飾られ、1725年に取り付けられた全部で重さ500kgにおよぶ16本の蠟燭が、聖堂の中央に吊されています。

【ウスペンスキー寺院】 Успенський собор

ペチェルスカ大修道院の主聖堂であるこの寺院は1941年11月、第二次世界大戦中にドイツ軍あるいはソ連軍によって破壊され、今でも真相は謎のままです。もともとは1073年から1089年にかけて、キエフ・ルーシの建築家と12人のギリシャ人によって建てられました。寺院の大きさは、高さ43m、長さ34m、幅30mあり、壁と床はモザイク画とフレスコ画で飾られていたそうです。

1949年、神話を題材に描かれた12世紀のプレートがドイツから返却されましたが、多く

の美術品は爆破される前に既に修道院関係者らに持ち出され保管されていたようです。

現在の寺院は2000年秋に外側、2001年に内部の修復が整い開帳されたものです。

【大鐘楼】 Велика лаврська дзвінниця

1744年、サンクト・ペテルブルグ出身の建築家シェーデリの設計で建てられました。四階建て高さ96.5mの塔に金色の円屋根が付いています。3階には、13個（約100t）の鐘楼が吊されていましたが、現在その内の3個だけが残っています。鐘楼の最上階からは、キエフの景色を一望できます（別料金）。この鐘楼の最先端が、キエフで一番高い所だとされています。

【地下洞窟】 Близькі та далекі печери

年代記によると、1051年修道士アントニーが最初にこの洞窟に移り住んだことが記されています。タタール・モンゴルが襲来してきた際には、この洞窟は避難所として利用されました。洞窟には「近い洞窟」（全長383m）と「遠い洞窟」（全長293m）がありますが、「近い洞窟」の方が見応えがあるようです。元々、これらの洞窟は修道士の住居として使われていましたが、修道士の宗教生活が地上に移ったため、その後600年間洞窟は修道士の墓所として使われることになりました。イトスギの木で作られた霊廟には修道院の創設者アントニーや年代記作者ネストルの他、キエフ・ルーシ時代の有名な人物のミイラが納められています。これらは特別に処置を施した物ではなく、洞窟内の一定に保たれた温度と湿度によって自然とミイラ化したものとされていますが、この地は正教会にとって最も重要な聖地であることから、これは奇跡によるものだと信じられています。（これらの聖人のミイラは「近い洞窟」に79体、「遠い洞窟」には46体納められています。）地下洞窟は聖人の眠る神聖な場所であり、常に多くの敬虔な信者が訪れ祈りを捧げていますので、入場の際は入口でロウソクを購入し、女性は必ずスカーフを被って頭髪を隠すなどのマナーを守るように心がけて下さい。

【ウクライナ歴史文化財博物館】 Музей історичних коштовностей України

紀元前6～19世紀のユニークな文化財が収められており、「スキタイの黄金」と呼ばれるコレクションや原始スラヴ、キエフ・ルーシ及びビザンチン帝国の芸術性の非常に高い作品、また14～19世紀にかけてのウクライナの貴金属品が展示されています。その他、博物館は10万点以上の金、銀、プラチナ、宝石を所有しています。

【書籍・印刷物博物館】 Музей книги та друкарства України

11世紀から現在までの書籍・印刷の発展を展示しています。この修道院で11～12世紀初頭にかけて編集された最古の「ロシア原初年代記」（「過ぎし年月の物語」、「ネストルの年代記」とも呼ばれる）の写本（14世紀）が残っています。

【民芸博物館】 Музей Українського народного декоративного мистецтва

15～20世紀初頭の木彫り、陶器、織物、刺繍などのウクライナ民芸品と現代民芸品の二つの部門に分かれて展示されています。なお、ウクライナで有名な農民画家カテリーナ・ベロクーールの作品もここで見る事が出来ます。

4. 聖ミハイル黄金ドーム修道院寺院 Кієво-Михайлівський Золотоверхий чоловічий монастир

住所：Пл. Михайлівська / Tel : 279-22-48

休館日：なし / 入場料：無料

聖ミハイル黄金ドーム修道院はその昔、ミハイル丘と呼ばれた丘の上に1108年スヴァトポルク公の治世に建設が始まりました。ヤロスラフ賢公のソフィア聖堂建設の手法と同じく、当初は寺院の周りを城壁で張り巡らしたものでした。建設にはビザンツ帝国とキエフ・ペチェルスカ大修道院の専門家たちが携わり、聖堂中央部にあるモザイク画及び壁面のフレスコ画が描かれました。修道院の内装は17世紀に改装されましたが、現在の修復はこれに沿ったものになっています。17世紀、ウクライナ国民の民族復興の時期に流行したこの建築様式は「ウクライナ・バロック」と呼ばれ、白と青の色彩の壁に、緑あるいは金の丸屋根（ドーム）が特徴となっています。

聖ミハイル修道院のモザイク画は、ソフィア聖堂のそれと比べて、より色調豊かで人物像の均整がとれており、心理描写的かつ人間的であると言われています。

1936年、スターリン時代の教会弾圧のもとミハイル修道院はほぼ完全に破壊され、モザイク画と内部のいくつかのフレスコ画のみが難を逃れました。

ウクライナ独立後、1994年にミハイル寺院の再建法が制定され、98年の「キエフの日」（5月の最終土曜及び日曜日）に鐘楼の完成式が行われました。

5. アンドレイ教会 Андріївська церква

住所：Андріївський узвіз, 23 / Tel : 278-1221

開館時間：10:00～18:00、火曜～17:00 / 休館日：水曜 / 入場料：無料

1744年、ロシア帝国の女帝エリザヴェータ（ピョートル大帝の娘）がキエフを訪問したのを記念し、イタリアの建築家ラストレッリがバロック様式で建立しました。（ラストレッリは60歳の時にイタリアを後にし、サンクト・ペテルブルグに現在エルミタージュ美術館として名高い「冬の宮殿」等数々の華麗なる建築物を残しています。）ソ連時代、博物館として機能していましたが、日曜になると18世紀から20世紀のロシアやウクライナの歌が歌われていたそうです。10年間かけて行われた内部改修が2001年に終了しました。

【アンドレイ坂】 Андріївський узвіз

教会前より始まる坂はアンドレイ坂と名付けられ、これに沿って、アンティークショップ、ギ

ャラリー、土産物屋が並んでいます。また、坂を下る途中、右手13番の建物には、ロシア作家ミハイル・ブルガーコフが1906年～16年及び1918年～19年の間住んでいた家が現在博物館として残っています。坂を下りきると、キエフ・ルーシ時代から栄え、主に職人や商人が住んでいた下町ポディール（裾野）と呼ばれる地区に入ります。

6. ウラジーミル聖堂 Володимирський собор

住所：бульв. Т.Шевченка, 20 / Tel : 235-0362., 235-5385

開館時間：07:00～20:00 / 休館日：なし / 入館料：無料

ソ連時代も閉鎖されることなくミサが行われていた教会です。建設に係る費用は全て民衆の寄付によって集められたため、20年という歳月を要し、最終的にはベレッチの設計で1882年ようやく建設が終了しました。教会入口の扉には、オリガ公とウラジーミル公が描かれています。内部のフレスコ画は、ブルーベリ、ヴァスネツォフ、ネステルらによって描かれました。中央には、ヴァスネツォフによって描かれた聖母マリアとその腕に抱かれたキリストのフレスコ画が飾られています。

ここでは、洗礼式、結婚式、葬式といった人々の日常に関する全ての宗教行事が行われています。人々は、前方左手にある聖ニコライのイコンの前で「生きている」人々のために祈り、前方右手にある聖マリアのイコンの前で「亡くなった」人々のために祈りを捧げています。

7. キリル教会 Кирилівська церква

住所：вул. Олени Теліги, 12 / Tel : 468-1126, 417-2268

開館時間：10:00～18:00 / 休館日：金曜日 / 入館料：10フリヴニャ（子供5フリヴニャ）

キエフにある数々の寺院の中でも特に美しく、12世紀建立当時の壁画（フレスコ画）が多く残されている数少ない寺院です。1140年、キエフを攻略したチェルニゴフ公フセヴォロドによって建てられ、以後チェルニゴフ公一族の聖堂・霊廟としての役割を果たしました。ここには1179年にフセヴォロド公妃マリア、1194年には古代ロシア文学の傑作「イーゴリ軍記」で名高いスヴァトスラフ公（フセヴォロド公の息子）が埋葬されています。度重なる修復の後、18世紀半ばに現在のウクライナ・バロック建築様式に立て直されました。内部は800㎡以上に及び、有名なイコン画家ブルーベリによるフレスコ画が飾られています。また、12世紀当時のフレスコ画としては、「青年ヨハネを砂漠に導く天使」、「天国」、「キリストの誕生」などが保存されています。

2. 博物館・美術館

8. ウクライナ国立美術館 Національний художній музей України

住所：вул. Грушевського, 6 / Tel : 278-1357, 279-6462 / URL: namu.kiev.ua (ウ・英)

開館時間：水・木・日 10:00~18:00、金 12:00~19:00、土 11:00~19:00 / 休館日：月・火曜日

入館料：20フリヴニャ

14世紀から18世紀のイコンのコレクションが豊富で、ウクライナ人画家の作品が主に展示されています。特にボフダン・フメリニツキーを描いたイコン「パクロフ」（17世紀）は有名です。

9. ロシア美術館 Музей російського мистецтва

住所：вул. Терещенківська, 9 / Tel : 287-7324 / URL: www.kmrm.com.ua (ウ・露・英)

開館時間：水土日10:00~17:00、火金11:00~18:00 / 休館日：月曜日・木曜日 / 入館料：30フリヴニャ

1880年代の有名な実業家テレシェンコの所有する建物と彼のコレクション、その他国有化された作品をもとに1922年美術館が設立されました。30以上のホールに古代ロシアから現代ロシアまでの作品が展示されています。”ロシア最初の聖人”としてこよなく愛されている「聖ボリスと聖グレブ」の13世紀のイコンは、この美術館の貴重な作品となっています。

その他、レーピン、ブルーベリ、アイヴァゾフスキー、ゲーらの作品があります。

10. ウクライナ歴史博物館 Музей історії України

住所：вул. Володимирська, 2 / Tel : 278-4864 / URL: nmiu.com.ua (ウ・英)

開館時間：10:00~16:45 / 休館日：水曜日 / 入館料：30フリヴニャ (子供15フリヴニャ)

1899年このアンドレイ丘に建設されました。博物館は、原始時代、スキタイ族の歴史、キエフ・ルーシの歴史、14世紀から18世紀のウクライナの歴史、19世紀から20世紀初めのウクライナの歴史及び現代ウクライナ等8ホールに分かれています。博物館の手前には10世紀に建立され、モンゴル・たといわれる「デシャチンナヤ教会」の土台が残っています。

【ウラジーミル丘】 Володимирська гірка

この丘は、キエフという名称の由来となったキー公が移り住んだと伝えられているキエフで最も古い場所です。丘の頂上には、古くから人々の間で信仰されていた多神教の神ペルーンをはじめ6つの神々の木製の偶像を祭った神殿がウラジーミル公によって建立されましたが、キリスト教（正教）を国教に制定した後、ウラジーミル公自らこの偶像をドニプロ川支流のポチャイナ川に流し、その跡地に自らの洗礼名をとった「聖ヴァシリエフ教会」を建てました。

11. ハネンコ美術館 Музей мистецтв ім. Богдана та Варвари Ханенків

住所：вул. Терещенківська, 15/17 / Tel : 234-3576, 235-3290 / 入館料：30フリヴニャ

開館時間：10:30~17:00 / 休館日：月曜日・火曜日 / URL: www.khanenkomuseum.kiev.ua (ウ・露)

キエフの有名な考古学者ボフダン・ハネンコが1870年代から始めたコレクションをもとにして建てられました。ベラスケス、ルーベンスらの西ヨーロッパの絵画・彫刻、ギリシャ彫刻、家具、コブラン織、銀製品、貨幣、イラン・中国・日本の美術品が揃っています。

12. シェフチェンコの家博物館 Будинок-музей Т.Г. Шевченка

住所：Пров. Шевченка 8а / Tel : 278-3511 / URL: www.shevchenkomuseum.com.ua (ウ語)

休館日：金曜日、最終木曜日 / 開館時間：10:00～17:00 / 入館料：10フリヴニャ

ウクライナの誇る詩人であり、思想家・哲学者でもあったタラス・シェフチェンコ（100フリヴニャ札の肖像画になっています）が1846年～47年の間住んでいた木造の一階建て家屋が博物館となっています。彼の衣服、創作活動に使用した品々、写真、肉筆の原稿等が保管されています。

13. 民族建築と風俗の博物館 Музей народної архітектури та побуту України

住所：вул. Червонопрапорна, Пирогів / Tel : 526-2416, 526-5765, 526-5542 / URL: nmnapu.org.ua (ウ語)

休館日：なし / 開館時間：10:00～17:00 / 入館料：30フリヴニャ（子供15フリヴニャ）

1969年にオープンした総面積120ヘクタールの野外博物館で、市内からは車で約30分。

16世紀～20世紀のウクライナ各地の建築物300以上とウクライナ25州から集めた民芸品を地方ごとに展示しています。多くは実際に使われていた建築物を運び、修復したものです。住居、木造の教会、納屋、穀物束の乾燥場、打穀場、井戸、水車小屋、風車小屋といった、昔からのウクライナ人の生活様式を垣間見ることが出来ます。博物館の入口には土産物屋があります。

14. チェルノブイリ博物館 Музей "Чорнобиль"

住所：пров. Хорива 1 / Tel : 425-3068, 417-5422, 425-4462

開館時間：10:00～17:30(土曜日 10:00～16:30) / 休館日：日曜、毎月最終日

入館料：10フリヴニャ(子供5フリヴニャ)、ガイド：100フリヴニャ (英・独語)

1990年に、内務省が発起人となり開館しました。二階建て建物の入口のホールには、原発事故前のプリピャチ市とチェルノブイリ市の住民の生活を記録したドキュメンタリーフィルムを試写出来る他、ウクライナ人画家の描いたチェルノブイリに関する絵画が飾ってあります。玄関を入った所の階段には、原発事故後に消失した町のおびただしい数の名札が掲げられており、事故の悲惨さを物語っています。2階部分は4つのホールに分かれており、事故発生時の午前1時23分で止まっている時計、原子力発電所の分布図、前線で働いていた消防士及び軍人の服等が展示されています。また、ビデオで原子炉の屋根の上で働く特殊部隊のドキュメンタリーの一コマを見ることが出来ます。

15. マリンスキー宮殿 Марїнський палац

住所：вул. Грушевського 5

1750年～55年、建築家ラストレリィの設計で建てられたウクライナとロシアのバロック様式がうまく調和した建造物です。1819年、火災のため2階部分が燃焼しましたが、当時のロシア皇帝アレクサンドル2世と皇妃マリアがキエフを訪問したのを機に再建され（1870年）、皇妃マリアの名が付けられました。現在、主に大統領の迎賓館として公式行事に利用されており、日によっては一般にも公開されています。

16. 祖国戦争博物館 Національний музей історії Великої Вітчизняної війни 1941-1945

住所：вул. Лаврська, 24 / Tel : 285-9452 / URL: warmuseum.kiev.ua (ウ・露・

英)

開館時間：10:00～17:00 / 休館日：月曜日 / 入館料：10フリヴニャ

空港から街に入る際、真っ先に目に入る巨大な「祖国の母」像の基部が第二次世界大戦時の写真や遺品を展示する戦争博物館になっています。高さ108mに及ぶ「祖国の母」像は1981年に当時の共産党書記長ブレジネフによって建てられました。戦争博物館の他にも、屋外にはソビエト時代のモニュメント、軍機やミサイルが展示してあり、全体で20ヘクタールの複合博物館になっています。

戦争博物館の北側、ペテルスカ大修道院側に広がるペテルスク要塞には、18世紀の武器庫（現在はカフェ）や城壁が残されています。

3. 郊外

1) カーニフ Канів

キエフの南方150kmに位置するウクライナで最も歴史のある町の一つです。1147年に建築されたウスペンスキー寺院がある他、ドニプロ川沿いの小高い丘の上に、タラス・シェフチェンコの遺言に従って埋葬された彼の墓地や銅像、彼にまつわる博物館があります。

2) ウマニ Умань

キエフから南方に220km離れたウクライナ・ステップ地帯にある、17世紀初めに建設された都市です。この地に1796年ポーランドのパトツキー伯爵が、彼の美しいギリシャ人の妻「ソフィア」から名前をとって「ソフィエフカ」という樹木公園を作りました。700種類以上の木々が生殖している美しい公園です。

3) コセニフカ Косенивка

ウマニ地区コセニフカ村には、1940年～1945年まで日本に駐在し、1945年9月2

日に戦艦「ミズーリ」艦上で行われた、太平洋戦争における日本の連合軍に対する降伏文書調印式でソビエト連邦代表を務めたデレヴァンコ将軍（1904～1954年）の記念博物館があります。同博物館には、将軍とその家族の写真や生家で使われていた家具、日本駐在中の様子を伝える資料などが展示されています。住所：ウマニ地区コセニフカ村／開館時間：09：00～18：00／休館日：日・月・火曜日／入館料：無料／Tel：067-965-5214

IV. 芸術

キエフは古代キエフ・ルーシの時代にはスラブ世界の中心として、またソ連時代にはモスクワ、レニングラード（現サンクト・ペテルブルグ）と並ぶ第3の大都市として文化・芸術の中心的な役割を果たしてきました。特にバレエではキエフ・シェフチェンコ・バレエ団は旧ソ連時代にはモスクワのボリショイ・バレエ団、ペテルブルグのキーロフ・バレエ団（現マリンスキー・バレエ団）と並び三大バレエ団として世界的に有名でした。またキエフ・ルーシの時代から、ウクライナでは道化役者を始めとする演劇芸術が盛んで、18世紀から19世紀にかけて多くの劇場が建てられ、ロシアやポーランドからの劇団が公演したといえます。現在キエフには約20の劇場があり、席により異なりますが、チケットも10～200フリヴニャと比較的安く、一般的な庶民の娯楽として定着しています。劇場シーズンは9月から6月です。

17. 国立オペラ劇場 Національна опера України ім. Т.Г. Шевченка

住所：вул. Володимирська 50／Tel：455-9087, 234-7165／URL:www.opera.com.ua/(ウ・英語)

ウクライナを代表するオペラ劇場であり、オペラ及びバレエ団を擁しています。オペラはウクライナ語、露語、伊語、独語で行われ、海外からのバレエ・オペラ・オーケストラの招待公演も行われます。同劇場のバレエ団は、日本を含め海外公演も行い好評を博しています。公演プログラムは当日になって変更されることもあるので要注意です。劇場の建物は19世紀後半に建てられたもので、当時の外観を残して1980年代に修復が行われました。現在、同劇場のバレエ団では日本人のバレエダンサーも活躍しています。

18. イヴァン・フランコ記念国立ドラマ劇場 Театр ім. Івана Франка

住所：Пл. І. Франка 3／Tel：279-5991, 279-5921／URL:www.ft.org.ua

19世紀後半に建てられた、ウクライナを代表するドラマ劇場で、当時のウクライナ国民的作家イヴァン・フランコの名称がつけられています。ウクライナ古典劇、ロシア・西欧の戯曲等がウクライナ語で上演されています。

19. レーシャ・ウクライナ記念ロシアドラマ劇場 Театр русской драмы им. Леси Украинки

住所：вул. Богдана Хмельницького 5 / Tel : 234-4223 / URL: rusdram.com.ua

ロシアのクラシック戯曲、ロシア語訳の西欧劇が上演されます。旧ソ連時代には映画俳優としても有名であった役者がそろっています。ソ連時代は、ソ連全土で公演を行っていました。

20. 国立フィルハーモニー Національна Філармонія

住所：Володимирський узвіз 2 / Tel : 278-1697, 278-6291 / URL: www.filarmonia.com.ua (ウ語・露語・英語)

国立ウクライナ交響楽団を擁する音楽堂で、19世紀末には商工会議所として使用されていました。音響がすばらしく、オーケストラや室内楽等のクラシック・コンサートが行なわれています。公演スケジュールはホームページで確認することができます。

21. サーカス Цирк

住所：Пл. Перемоги 2 / Tel : 236-3939

各地のサーカス団が3～4か月間、交代で興行しており、ロシアからの興行もあります。土曜日と日曜日が興行日で、子供づれの親で満席になります。建物は1960年代に建てられたものです。

22. 聖ニコライ教会 Будинок органної та камерної музики

住所：вул. Червоноармійська 77 / Tel : 528-3186 / URL: www.organhall.kiev.ua (ウ語・露・英語)

開館時間：12:00～19:30 / 休館日：日曜日

ウクライナでも有数のオルガンがあるカトリック教会。20世紀初頭に建てられ、1970年代に装備が改良されました。昼はミサが行なわれ、夕方にはオルガンなど室内楽のコンサートが催されています。

V. 食事・レストラン

1. 食事

伝統的なウクライナ料理には、ホロデッツ（肉、魚のゼリー寄せ）、ボルシチ（赤カブのスープ）、カツレツ、ホルプツィ（ウクライナ風ロールキャベツ）、ワレニキ（ウクライナ風餃子：中身は肉、野菜、果物など多様）、ムリンツィ（ウクライナ風クレープ：中身は肉、果物、サワークリーム等）などがあり、ウクライナ料理のレストランやカフェで注文することができます。（一般的にロシア料理として知られている“ボルシチ”は、実はウクライナが発祥の地であり、本場です。）

また、サーロ（豚脂身の塩漬け）や野菜の酢漬け（トマト、キュウリ、キャベツ、ニンニクな

ど) もウクライナの代表的な前菜で、ウォッカなどお酒のつまみによく合います。

キエフ市内にはウクライナ料理以外にも中華料理、韓国料理、イタリア料理、フランス料理、ヴェトナム料理、インド料理、モロッコ料理など様々なレストランが次々とオープンしており、人気メニューのお寿司などを置く日本料理店も増えています。

2. 酒類

ウクライナでは、ウォッカ、ワイン、シャンパン、ビールなどが生産されており、特にビールは西側の資本も入って美味しいものが増えています。(ヨーロッパ・ビール・コンテストで金賞に輝いたビールもあります。) その他、レストランではヨーロッパ産のビール、ウイスキー、ワイン等も用意されています。ウォッカはロシアなどと同じような無色透明な物もありますが、ウクライナ独特の「蜂蜜と唐辛子入りウォッカ」を是非お試し下さい。

3. 主なレストラン

最後のページにリストがありますのでご参照下さい。

VI. 買い物

1. 代表的なお土産

ウクライナのお土産はロシアのそれと殆ど変わりはなく、有名な物としてはマトリョーシカ、毛皮の帽子、民族衣装、刺繍のテーブルクロス、パレフ(細密画の描かれている黒塗りの小箱)などがありますが、それ以外で特に人気があり、ウクライナ的であると思われるのは、ピーサンキ(細密画の描かれたイースター・エッグ)、ペトラコーフカ(草花などの描かれた小箱や花瓶)及び民族楽器バンドウーラ(弦楽器)などが挙げられます。その他、蜂蜜と唐辛子入りウォッカ(少し黄色がかっている)やタバコ(きつく、匂いは非常に強い)などもあります。市内の市場では、キャビアが日本で購入するよりも比較的安く売られていますが、購入する際には製造年月日を必ず確認し、また瓶詰め物を選ぶ方が無難です。安価な物は偽物(何かの植物の種を黒く着色している)の可能性が高いので避けた方が良いでしょう。また、試食をして購入する際にも、試食したキャビアと違ったものを売られることもあるので注意が必要です。

これら以外では、絵画、イコン(聖画)、骨董品があり、中には非常に価値の高いものもありますが、第二次世界大戦前の物は国外持ち出しが禁止されており、購入しても出国の際に税関で没収される恐れがあるので注意する必要があります。

2. 主なお土産店

1) アンドレイ坂 Андріївський узвіз

アンドレイ教会前の石畳の坂道で道端に露店が軒を連ね、民芸品から絵画、日用品まで各種あらゆる物を売っています。値段は交渉すればまけてもらえる店もあり、大量に購入すれば更に値引きが可能な場合もあります。

2) ソフィア寺院内売店 Софіївський собор

住所：вул. Володимирська, 24／営業時間：10:00～17:00

ソフィア寺院の敷地内にある小さなお土産物店。品質の良いウクライナの民芸品などが揃っています。鐘楼建物の入り口にも別のお土産店があります。

3) 酒屋「ブジモ」 Будьмо

住所：Андріївський узвіз／営業時間：9:00～21:00

アンドレイ坂上の方にある酒屋。お土産用のきれいな瓶に入ったウォッカ、ワインが購入できます。

4) 其他のお土産物店

市内の大型スーパーマーケット、またフレッシュチク通りの中央デパート（ツム）やホテルの売店でも種類は少ないですがお土産を買うことができます。ホテルの売店にあるものは値段が高く、ほとんどの場合割引がありません。

●中央百貨店 ЦУМ 無休 9:00～20:00(日曜 11:00～18:00) 住所：вул. Богдана Хмельницького, 2 (現在改装工事中)

●ウクライナ・デパート Універмаг Україна 住所：Пл. Перемоги 3

【おおよその値段】

●マトリョーシカ：小さい物で10ドル程度、大きい物は30ドル程度～。大きくて装飾が細かな物は50ドル以上。

●毛皮の帽子：毛の種類にもよるが安い物なら50ドル程度、ミンク等は80ドル～200ドル程度。

●民族衣装（刺繍入りのブラウス）：30ドル程度～

●ピーサンキ（イースター・エッグ）：1個1ドル～10ドル程度

●パレフの小箱：5ドル程度～

●ウォッカ1本：5ドル程度～

VII. 主要連絡先

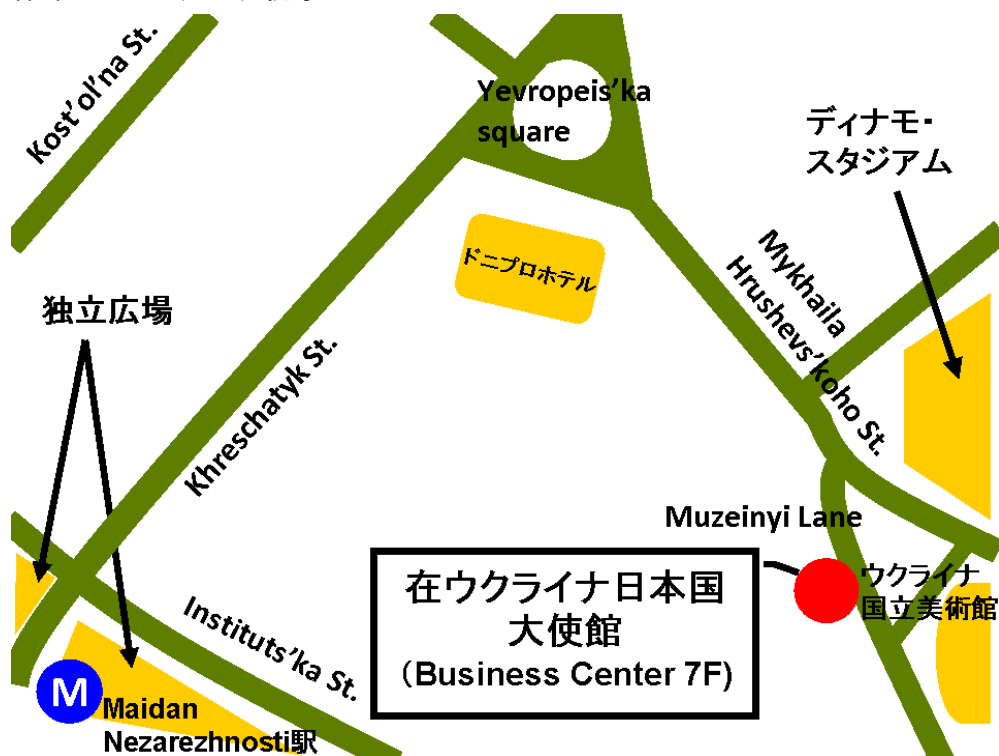
1) 在ウクライナ日本国大使館

住所：4, Muzeiny Lane, Kyiv, 01901, Ukraine

Tel：+380 (44) 490-5500／Fax：+380 (44) 490-5502

開館時間：09:00～18:00（昼休み：12:30～13:45）

休館日：土、日、祝祭日



2) その他緊急連絡先

- イ) 消防 101
- ロ) 警察 102
- ハ) 救急車 103
- 二) 電話番号案内 109, 1559